

これで
見える！
つながる！

How to treat patient with occlusal problem

咬合治療 ナビゲーション

普光江 洋／武井順治／榊原功二〔著〕

ナビに従ってアポイントを進めていけば、咬合治療が
組み立てられる！



本書の特徴は、「順次誘導咬合理論」をベースに、咬合治療で行う診査、診断、治療をアポイントごとにまとめ、読者に「その日に患者さんの何を診て、何をするか、どんな問題をみつけるべきか」をナビに沿ってそのまま実践できるように構成している点。

咬合を理解するための用語集、診療に必要な診査チャート、技工操作の解説つき。

CONTENTS

- PART I 咬合治療ナビゲーション編
- PART II 臨床ノウハウ&テクニック編
- PART III ラボワークのノウハウ&テクニック編

●サイズ:A4判 ●188ページ ●定価 本体8,000円(税別)



クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 <http://www.quint-j.co.jp/> e-mail mb@quint-j.co.jp



ナビに従い各ステップを確実にこなしていけば咬合治療は難しくない！

PART I

咬合治療ナビゲーション編

診療第1回目初診

一般診査と写真撮影、診断用模型の印象採得をする

診療項目1 初期診査表にしたがって、一般診査を進める

1-1 初期診査表で見落としがちな「咬合」に関連する問題をつかもう

診療項目2 写真撮影を行う

2-1 顔貌および口腔内写真を撮影する

診療項目3 印象採得を行う

3-1 印象を採得し、診断用模型を製作する / 3-2 印象採得の流れ

ついでにやっておこう ブラックスチェッカー製作用の印象も同時に採得しておこう

第2回目のアポイントメント 咬合診断に必要な資料を準備する

診療項目1 診断用模型を咬合器に正しく付着するための資料を採得する

1-1 咬合分析の前準備として、診断用模型を咬合器に付着する

1-2 上顎模型の咬合器への付着用資料：フェイスボウトランスファーを行う

1-3 下顎模型の付着用資料：「基準位(RP)」で咬合採得する

診療項目2 咬合分析をスタート

2-1 咬合分析シートに沿って分析を進めよう

第3回目のアポイントメント 顎関節の機能を調べる

診療項目1 下顎運動データを計測する

1-1 下顎運動を計測する理由

1-2 下顎運動データの解析でわかる具体的な問題

診療項目2 診査資料から治療計画を立てる

2-1 まずは患者さんの問題点を書き出す / 2-2 治療目標から治療計画を立てる / 2-3 治療の順番を決める

初診から第3回目までのまとめ

S.Kさん52歳をモデルに診査・診断をし、治療計画を立てていこう

モデルケース S.Kさん52歳、男性の診査資料を基に総合診断・治療計画を立てよう

[誌上シミュレーション1] S.Kさんの診査資料を一覧してみよう

[誌上シミュレーション2] 患者さんの問題を書き出す＝プロブレムリストを作る

2-1 モデルケースの問題を実際に書き出してみると。

[誌上シミュレーション3] 治療目標に応じた治療計画を完成させる

3-1 S.Kさんに提出する治療計画用紙

治療手順1 支台歯形成を行う / 治療手順2 テンポラリークラウンを装着する / 治療手順3 支台歯の印象を採得する / 治療手順4 技工指示書を作成し、ラボへトランスファーする / 治療手順5 ラボによる補綴物製作の流れ / 治療手順6 補綴物を試適し、調整を行う / 治療手順7 側方運動時の干渉をチェックし、調整する / 治療手順8 咬合再評価～メンテナンス / 治療結果S.Kさんの術前・術後で問題がどれだけ解決されたかを見てみよう

PART II

臨床ノウハウ&テクニック編

1. 筋触診法

1-1 筋触診で「痛み」の有無、強さを把握しよう

1-2 筋触診の手順とテクニック

2. 咬合診査に必要な顔貌写真の撮影法

2-1 写真撮影で準備するもの / 2-2 顔貌写真は「正視」と「笑顔」の2種類を撮る / 2-3 撮影を上手に行うための流れと方法

3. 口腔内写真の撮影法

3-1 必要な口腔内写真は、必ず6枚以上撮影する

3-2 写真撮影時の注意点

4. 診断用模型製作のための印象採得テクニック

4-1 正確な印象採得は事前準備から

4-2 ここははずすな印象採得！

5. 石膏注入のテクニック

5-1 石膏注入時の注意点 / 5-2 石膏硬化後にも配慮は十分に

6. ブラックスチェッカーの使用法

6-1 ブラックスチェッカーとは / 6-2 ブラックスチェッカーの原理と役割 / 6-3 ブラックスチェッカーの使用法 / 6-4 ブラックスチェッカーの評価法

7. 診断用模型による咬合分析法

7-1 咬合分析のために用意するもの / 7-2 模型分析の手順 / 7-3 シリコンカットの製作法

8. 顎機能診査：CADIAX compact2のセットアップ

8-1 CADIAX compact2のコンポーネントの中味

8-2 CADIAX compact2の組み立て方とセットの仕方

9. 下顎運動の総合評価の仕方

9-1 選定した下顎運動を客観的に評価する

9-2 8つの項目の評価法と解釈の仕方

PART III

ラボワークのノウハウ&テクニック編

1. ラボでのフェイスボウトランスファーの操作法

1-1 ラボにおける模型の咬合器への付着

2. 順次誘導咬合のためのワクシングテクニック

2-1 Ⅰ級咬合のワクシングの基本

2-2 ワックスアップの手順

3. ブラックスチェッカー製作法

3-1 手順

きりとり線

注文書

これで見える！つながる！咬合治療ナビゲーション

—生体と調和する根拠ある咬合治療の実践—

モリタ商品コード:805595

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	
		支店・営業所

※ご購入いただいた個人情報、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送りさせていただきます。